

令和 5 年度
事業計画



学校法人 大妻学院

[目 次]

I	はじめに	1
1	大妻学院の使命	1
2	大妻学院の教育目標	1
3	大妻学院の運営目標	1
II	令和5年度の事業計画	3
1	大学関係（大学院及び短期大学部を含む）	3
1-1	大学等教育組織改革	3
1-2	中期計画	3
1-3	教育研究環境	4
1-4	令和3年度受審の認証評価結果を踏まえた計画	4
2	中高関係	5
	大妻中学高等学校	5
	大妻多摩中学高等学校	7
	大妻中野中学高等学校	9
	大妻嵐山中学高等学校	11
3	法人関係	13
3-1	社会的責任	13
3-2	管理運営	13
III	事業活動収支予算書	14

I はじめに

1 大妻学院の使命

- (1) 学び働き続ける自立自存の女性の育成
建学の精神を継承するとともに、常に時代の変化に適応し、「学び働き続ける女性」として社会のあらゆる分野に主体的に参画貢献できる自立した女性の育成を目指す。
- (2) 女子教育に積極的な役割を果たす教育・研究活動
人間生活文化活動の多方面に亘る真理考究において、積極的な役割を果たす研究業績を積み重ね、社会の負託に応えられるような教育・研究機関を目指す。
- (3) 持続可能な共生社会の実現への貢献
地域住民や国内外の企業及び行政機関あるいは教育機関等との協働活動に積極的に参画し、社会から信頼を受け、慕われ愛される存在として持続可能な共生を目指す。

2 大妻学院の教育目標

- (1) 大学・短大
 - ① 総合的な人間教育により社会の構成員としての自覚と識見を有する自立した人材を育成する。
 - ② 男女共同参画社会において、グローバルな視野を持ち中核的な指導的役割を果たすことができる専門的職業人女性を育成する。
 - ③ 女子高等教育において、教育分野及び研究分野の女性後継者を育成する。
 - ④ 地域・社会との連携において、指導的役割を果たせる女性を育成する。
- (2) 中高
 - ① 人間性が豊かで自立可能な女性を育成するために、「恥を知れ」「らしくあれ」「良き社会人・良き家庭人たれ」の本学の伝統的な人間教育理念に基づいた中等教育を行う。
 - ② 社会に出て活躍できる有能な女性リーダーを育成するための中等教育を行う。
 - ③ 知的好奇心を醸成し、グローバル化の進展に後れを取ることなく適応していくために、広い視野と深い洞察力を持った女性を育成するための中等教育を行う。
 - ④ 自己管理能力を高め、互いに尊重しあえる女性を育成するための中等教育を行う。

3 大妻学院の運営目標

- (1) 大学・短大
 - ① 少子化並びに高度情報化時代の潮流の中で、女性の職業的キャリア形成に対するニーズに的確に答えていくために、現行 5 学部、1 短大の学部組織編制の在り方を不断に点検し、必要とあらば全学的な見地から弾力的にかつ大胆に学部・学科再編に着手する。
 - ② 経営的に持続的発展が厳しくなる環境のなかで、受験生・保護者から支持選択され存続していくために、「教育」に依存した教学機能に「研究」機能を戦略的に拡充付加し、その活動成果を積極的に対外広報することによって、本学のブランド・イメージを時代に相応しいものに転換していく。
- (2) 中高
 - ① それぞれの立地条件のもとで、地域周辺の受験生・保護者から信頼され選択される学校となって存続していくために、訴求したい差異的かつ競争力のある教育内容の設定に工夫を凝らし、それに相応しい校内体制を構築する。

- ② 人格形成教育と学力向上教育の適切なバランスを維持しながら、後者については入学時からの学力向上進捗度を計量的に常時観察し、本学の学力における付加価値形成能力が生徒・保護者から期待される水準にあるかの検証体制を調べ、その向上を図る。

II 令和5年度の事業計画

1 大学関係（大学院及び短期大学部を含む）

1-1 大学等教育組織改革

- (1) 令和5年度入学生を対象に全学共通科目において新規科目「データサイエンス・AI 概論」「SDGsと現代社会」「リーダーシップ開発」を新設する。

1-2 中期計画

(1) 教育・研究活動の活性化

- ① 教育体制の充実、教育面における内部質保証
 - ・次期中期計画に向けたアセスメントポリシーとその評価指標の見直しの準備をする。
 - ・文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の申請にあたり、実施体制を決定し、自己点検・評価を実施する。
- ② グローバル化・語学教育
 - ・受入留学生支援及び日本人学生との交流茶話会や留学生交流会、日本人学生によるピアサポートを実施する。
 - ・留学経験者による留学希望者への情報提供・交流の機会として、留学経験発表会を実施する。
 - ・長期留学・短期研修や国内留学プログラムなどタイプ別のアンケート等を実施する。
 - ・多様性教育の一環としての留学プログラムに学生がより参加しやすくなるよう多様化を図り、国内外の研修を企画・立案する。
- ③ 学生支援体制の充実
 - ・学長と学生の懇談会を開催する。
- ④ 研究活動の活性化
 - ・戦略的個人研究費における研究の進捗状況確認を通じて研究活動の活性化を促す。
 - ・科研費獲得の支援を目的として開催している科研塾の充実を図る。
- ⑤ 教育・研究・学生支援における組織の在り方の検討
 - ・学部3年生に対して行った大学院進学意識アンケートの結果を踏まえ、令和5年度から学部生が大学院の授業科目を履修できる制度（早期履修制度）を開始する。
 - ・就職支援センター内に大学院支援担当を配置し、求人紹介をはじめとする支援を行う。
 - ・ディスカバリーサービス（図書館が提供する様々なリソースを同一のインターフェイスで検索できるサービス）の内容を充実させることで電子コンテンツへのアクセシビリティの向上を図り、利用を促進させる。
 - ・学生の図書館への興味を喚起するよう、選書会や雑誌リサイクルを実施する。

(2) 社会的評価の一層の向上

- ① 入試体制の整備
 - ・一般選抜A方式I期で2月1日、2月2日の両日実施学科の追加、一般選抜B方式I期で2科目型と3科目型の併用学科の追加、総合型選抜II期で新規実施学科・専攻の追加を行う。
 - ・一般選抜A方式I期で新規に英語資格・検定試験の成績の活用を行う。
- ② 広報体制の整備
 - ・大学案内の巻頭ページにおいて、「学び」のキーワードや全学共通科目の見直しを取り上げ、「学び」で大学を選ぶ層の受験生への訴求を強化する。
 - ・年間3本の研究記事を大学ホームページ及び大学案内に掲載し、「研究の大妻」を周知する。
- ③ 地域連携体制の確立
 - ・地域の人々・学生・中高生徒や企業等と連携し、春・秋の年2回花植えの活動を実施する。

- ・千代田学に関する共同提案事業について、「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」の5大学で「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究」を実施する。(3年目)
- ④ 就職支援体制の確立
 - ・就職意欲を醸成させるイベント及び総合職・一般職・専門職各々の魅力や適性を理解するためのイベントを実施する。
 - ・企業・学生へのアンケートを実施する。
 - ・低学年から職務適性検査をはじめとする各種ガイダンスを実施し、個人の特性や仕事への適性を早期から考える機会を提供する。
 - ・総合職を意識した支援として、各ガイダンス・イベント内容の変更、学内企業説明会参加企業及びOG懇談会参加卒業生の選出の見直しを適宜行う。
 - ・就職活動のオンライン化等、社会情勢を見据えた企画の実施及び多くの卒業生・内定者と接するイベントを実施する。
 - ・内定者による後輩への支援体制「就職サポーター」を拡充する。
 - ・卒業生による後輩への支援体制「卒業生ネットワーク」を拡充する。
 - ・卒業後3年目のOGへのアンケートを継続実施する。
- (3) 多摩キャンパスの活性化
 - ① 教育の質の向上
 - ・英語力向上のための目標値に基づいたTEP (Tama English Program)、海外交流プログラム Malaysian Cultural Camp (MCC) を実施する。
 - ② 地域連携・地域貢献
 - ・大学文化祭において地域密着型のイベントを企画する。
 - ・キャンパスの特性を活かした中高大・地域貢献企画 (ESG 活動) をさらに提案し、実行する。
 - ・地域住民参加イベント「多摩さくら坂」での地域開放を中学入試につなげる施策とあわせ実施する。
 - ・多摩市と締結した「避難所運営マニュアル」を見直す。
 - ③ 物理的環境の向上
 - ・5号館 FOREST CAFE、2号館 TAMARIBA を多目的スペース (自主学习やリラクゼーションの場) として環境整備を行う。
 - ④ 大妻多摩中高と大学の連携
 - ・2号館 TAMARIBA を利用して、中高大連携事業を展開する。

1-3 教育研究環境

千代田キャンパス、多摩キャンパスともに学生の教育設備の充実と耐震性確保、キャンパスアメニティ向上のため以下の事業を実施する。

- ・千代田 大学校舎 A 棟視聴覚教室及びゼミ室の視聴覚設備の更新
- ・千代田 大学校舎 B 棟調理関連実習室の更新
- ・千代田 大学校舎 B 棟給食経営管理実習室の改修及び調理機械類の更新
- ・千代田 大学校舎 H 棟情報処理教室の PC 更新 (3 カ年計画の 2 年目)
- ・千代田 図書館棟エレベータ駆動部品の交換 (2 カ年計画の 1 年目)
- ・多摩 5 号館トレーニング室非構造部材耐震対策
- ・多摩 6 号館エレベータ制御機器の更新

1-4 令和3年度受審の認証評価結果を踏まえた計画

令和3年度受審の認証評価において、改善を要する点は大学、短大ともに挙げられなかったが、大学、短大のみに通知された事項における今後の取組についても大妻女子大学自己点検・評価委員会で検討し、実施する。また、今後も内部質保証の責任を負う組織である大妻女子大学自己点検・評価委員会を中心に自己点検評価活動を実施し、その結果については規程に従って外部公表を行う。

2 中高関係

大妻中学高等学校

2-1 入試広報

- (1) 広報活動の更なる充実を目指す
 - ① 本校の教育を簡潔に表現する。
 - ・世界へ羽ばたく女性を育てる。
 - ② 大妻講堂での説明会を実施する。
 - ③ 塾での説明会を実施する。
 - ④ 広報パンフレットを作成する。
 - ⑤ 在校生も参画する PR 活動を充実させる。

2-2 学習指導

- (1) 学ぶことの楽しさを教える
 - ① わかりやすい授業を心掛ける。
 - ② 生徒に寄り添った授業を実施する。
 - ③ どの教科も「読む」「書く」「話す」「聴く」を統合する力を育む。
 - ④ 双方向の学びを実施する。
 - ・知識の注入だけに終わらない授業を行う。
 - ・生徒同士が高め合い、生徒も教員も授業を楽しむ。
 - ⑤ 生徒が得意なことを伸ばす。
- (2) 6年かけて生徒を育てる
 - ① 生徒評価、成績評価を見直す。
 - ・減点評価でなく、生徒の長所を加点評価する。
 - ・多面的評価を取り入れる。定期試験だけでなく、レポート、生徒発表、小テストなどの結果を加えた成績評価を行う。
 - ・教員が十分な話し合いを行い、その合意の上の成績評価を行う。
- (3) オンラインの活用
 - ① 多面的授業の展開
 - ・スキルの要素はオンラインで配信し、教室での授業は、教員の特性を活かした授業を展開する。
- (4) 教科横断的の学びを取り入れる
 - ① 探究、情報授業を充実させる。
 - ・外部講師に頼るだけでなく、中高の教員も関わりながら授業を構築する。
- (5) 授業以外の学びも重視する
 - ① 体育祭、文化祭、校外行事を実施する。
 - ② 生徒の好奇心を学外の活動につなげる。
 - ③ 海外留学制度の整備
 - ・短期留学、長期休暇中の海外研修を充実させる。
 - ・海外留学プログラムを強化する。
 - ・留学期間の延長、学年配置などを検討する。
 - ・海外研修を復活する。
 - ④ 大学研究室訪問を実施する。
 - ⑤ 企業訪問を実施する。
 - ⑥ 他校との交流を実施する。
 - ・教員、生徒双方とも学外の活動を見ることを実践する。
 - ⑦ 授業見学を行う。
 - ・中高内の教員が互いに授業見学をする。
 - ・附属 4 中高間での教員、生徒の交流機会をつくる。
 - ⑧ 第二外国語の授業を実施する。
 - ・通年ではなく夏休みなどを利用した企画を実施する。
 - ・学年の枠を取り払い、中学 1 年から高校 3 年まで希望者を募って実施する。
 - ⑨ 大妻女子大学の授業を聴講する。

2-3 進路指導

- (1) 6年間の学びの確立
 - ① 各学年での学びの共有、各教科の中で6年の学びを一貫する。
-

- (2) 志望する大学への現役合格を目指す
 - ① 安心して学べる環境づくりを整える。
 - ・ 数値目標ではなく、将来像を描かせる教育を実践する。
 - ・ 推薦入試制度を充実させる。
- (3) 長期休暇中の講習会を実施
 - ① 幅広い分野の講習を企画する。
- (4) 将来像を考えさせる講座の企画・実施
 - ① 卒業生を招いての講座を企画する。
 - ② 大学訪問を実施する。
 - ③ 大学教員による模擬授業を実施する。
- (5) 大妻女子大学学生との交流

2-4 生徒指導

- (1) メンタルケアの充実
 - ① 管理職、教育相談に関する委員会、保健室、カウンセラーと学年団、その他すべての教員の連携を深める。
 - ② 生徒が相談しやすい体制をつくる。
 - ③ 外部医療機関との連携を深める。
 - ・ 外部医療機関と協力し、どのような体制が必要か考える。
- (2) 校則の見直し
 - ① 時代にそぐわない校則を見直す。
 - ・ 生徒が自由に発言できる雰囲気をつくる。

2-5 組織体制

- (1) 組織図の見直し
 - ① 校務負担を減らす組織づくりを検討する。
 - ・ 重複している校務を整理する。
 - ② 校務を軽減しながら機能的に動ける体制づくりを模索する。
 - ③ 事務室も含めた組織づくりを検討する。

2-6 教育環境の充実

- (1) 大妻女子大学の施設の利用
 - ① 大妻女子大学との連携を強化する。
 - ・ 大妻女子大学の諸施設利用について協議する。
- (2) 2階体育館にエアコンを設置するための方策の模索
- (3) ICT環境の整備
 - ① 教室の整備を行う。
 - ② 教職員、生徒の環境を整備する。

2-1 入試広報

- (1) 中学入試偏差値の上昇
 - ① 出願数を増加させ、一定ラインで不合格者を出せる入試運営を目指す。
 - ② 出願数を増加させるために効果的な広報活動を実施する。特に、SNSの有効活用や受験情報サイトへの露出強化を重点的に実施する。
- (2) 入試制度変更に伴い新設する、2月2日午後入試の出願者確保
 - ① 2月2日午後入試の新設情報が受験生及び塾関係者に伝わるよう、宣伝を強化する。
 - ② ターゲティングバナーを設置するなど、本校に興味を示す可能性があるSNS利用者へのバナー広告を展開する。
- (3) 帰国生の在校生満足度及び帰国生コミュニティにおける本校評価の上昇
 - ① 帰国生の保護者を集めた保護者会を実施し、不安材料や懸念事項などを聴取し、安心して学校生活を送れるように支援する。
 - ② 帰国生にとって魅力のある学校とするため、広報部からも改革案を積極的に出す。
 - ③ 国際進学クラスや英語の授業など、帰国生が満足できるような学習体制を整える。
- (4) 適性型思考力入試における出願者数の増加
 - ① 都立・県立中高一貫校への受験を中心とした塾や受験教育関連企業へのアプローチを強化し、25名以上の出願を目指す。
 - ② 令和5年度入試、令和6年度入試の状況を精査し、適性型思考力入試の日程変更を検討する。
- (5) 学校説明会の工夫
 - ① 外部人材の客観的評価を交えながらの説明会、生徒主催説明会などの工夫を凝らす。
 - ② 海外での学校説明会実施の道を探る。

2-2 学習指導

- (1) カリキュラムマネジメント
 - ① 本校の教育理念を踏まえた新学習指導要領に沿ったシラバス・評価方法及びルーブリックの研究を各教科で継続する。また、シラバスを生徒と保護者に提示し、評価方法と教科ルーブリックは今年度の完成を目指す。
 - ② カリキュラム変更も視野に入れつつ、現行のカリキュラムを検討し直す。
- (2) 主体的学習者の育成
 - ① 自己評価と相互評価を通して、自ら進んで多様な資質・能力を身に付けようとする学習者の育成を目指す。
 - ② 『フォーサイト手帳』、『スタディサプリ』、『放課後自習室システム』などを継続活用して、自己の学習状況を正しく把握し、適切な学習計画の立案・遂行ができるようにする。
- (3) 帰国生入試合格者への対応
 - ① 入学前・入学後の学習状況を把握する。
- (4) 国際教育
 - ① 6年間の国際教育プログラムの充実を図る。特に、学年間の活動のつながりを強化し、一貫性のあるものへ改善する。
 - ② 英語スピーチコンテスト、ディベート大会等への積極的な参加を促し、向上心を醸成する。
 - ③ グローバルキャリアフィールドワークやターム留学の事前学習、事後活動を重視し、「探究型異文化体験」、「探究型留学」を構築する。
 - ④ 帰国生の語学力向上、探究心促進、国際進学クラスのシラバス充実に向けたプログラムを開発する。
 - ⑤ ターム留学先をさらに拡充する。

2-3 進路指導

- (1) 学校推薦型選抜・総合型選抜について
 - ① 今後より増えると考えられる、学校推薦型選抜・総合型選抜に関して、より良い指導体制を模索していく。教員の指導力もさることながら、生徒に合格できる力がつくように、早期からリベラルアーツ企画の充実や科目融合授業の実施、学外コンテスト参加推奨などを行っていく。

- (2) 外部組織・外部人材の有効活用
 - ① 大妻女子大学、東京薬科大学との連携活動をより充実させ、進路の決定や将来のあるべき自己像の形成につなげる。
 - ② 社会科学系・人文科学系・理工系の学部を持つ他大学との連携を増やす。
 - ③ 地域連携授業を継続・拡充し、多摩に根ざした活動を推進する。
 - ④ 保護者・卒業生による職業紹介、大学・学部紹介を推進する。
- (3) データを活かした進路指導
 - ① 中学時代に9回行なわれる（新年度の中学1年より）「学力推移調査」の学習成績を丁寧に分析し、それを基に、生徒の学力・学習状況のより正確な把握と、各学年各教科の適切な学習指導を行なう。
 - ② 高校の模試データを蓄積していき、進路指導に有効に使えるシステムを構築する。
- (4) 将来に活かす探究活動
 - ① 現行の探究活動をより充実させ、中学段階からの継続的な探究活動により、常に社会との関わりを意識しながら、自己の得意分野を伸ばしていく。学校推薦型選抜・総合型選抜で合格できる力にもつなげていく。

2-4 生徒指導

- (1) 主体的な生徒の育成
 - ① 生徒会の活性化を促す。
 - ② 生徒主体による学校行事の運営に力を入れる。
- (2) クラブ活動外部指導者導入の促進
 - ① 顧問の専門性を補うため、専門性の高い指導者の導入を進める。
- (3) 人間関係スキル講座等の実践・研究
 - ① 将来の良き社会人を育成するために、中学生を対象にソーシャルスキルの授業を行う。（全8回）
 - ② 将来の良き社会人を育成するための教育プログラムを本校の「リベラルアーツ」と位置づけ、他のプログラムも検討・実践していく。
- (4) 校則の見直し
 - ① 時代にそぐわない校則を見直す。
- (5) ジェンダー問題等を踏まえた制服の在り方の研究
 - ① スラックスの導入を検討する。
- (6) 安心・安全な場の提供
 - ① ネットリテラシー教育の継続実施、いじめ防止、登校生徒への支援等、学校が安心・安全な場であるよう、学校全体としての対応体制を整える。

2-5 組織体制

- (1) 理想とする生徒像（グランドデザイン）や教育理念、6年間の流れを意識した教育プログラムを全教員に浸透させ、それに基づく教育を実践可能にする組織作り
- (2) 学び合う教員集団であるべく、校内研修・校外研修の奨励、研究会実施の検討
- (3) 学校づくりへの意識醸成のため、校務運営委員会・職員会議にグループワークを取り入れ、個々の教員の意見を活かす体制の整備
- (4) 教務規程・教員の手引き等の内容の精査及びその発行
- (5) 働き方改革
 - ① 採点業務（入学試験の採点も含む）の省力化のため、デジタル採点システムを導入する。
 - ② 規程改変も視野に入れた働き方改革を模索する。

2-6 教育環境の充実

- (1) 防災
 - ① 防災用品をさらに充実・拡充する。
 - ② 災害時の対策として避難訓練・保護者対象連絡訓練を実施する。
- (2) 図書システムのリプレイス
- (3) 体育館に冷房を設置するための方策の模索
- (4) 二酸化炭素濃度計測器の整備

2-1 入試広報

- (1) スクールミッションに基づいた中野校の教育の特徴・独自性を積極的に広報
 - ① ユネスコ・スクールやSGHネットワークの加盟校としての活動や様々な特色あるグローバル教育を、アドバンストコースの生徒募集にも積極的に発信する態勢を強化する。
 - ② 地球市民的視野を持ったリーダー育成を目指す具体的取組を、教科、学年、分掌の授業や課外で、横断的につなぎ、可視化し、共有、発信できる仕組みを構築する。
 - ③ 国内生、帰国生、転入・編入生などの多様な生徒を受け入れる体制、個に応じた柔軟な教育体制が進路実現につながっている学校であることをさらに周知する。
- (2) 広報戦略及び生徒募集・広報活動の改善
 - ① オンサイト・オンラインの特性を活かした広報戦略、募集活動イベントを設定する。
 - ② 働き方改革の流れに沿った広報業務のスリム化を検討する。
 - ③ 私学協会の指針に基づき、オンライン入試など柔軟な入試形態の設定を検討する。

2-2 学習指導

- (1) 学力向上に向けた学習指導
 - ① 授業充実のための中野校オリジナル冊子「より良い授業」に基づく授業を実施する。
 - ② 中学生の基礎基本事項の定着を図る取組として、MMT（マンデーモーニングテスト）の継続実施とその不合格者への指導として「妻中義塾」を実践する。
 - ③ MMTや授業中の小テストの不合格者に対するチューターシステムを利用した追指導を整備する。
 - ④ 英語及び数学検定の学年取得目標値を設定し、その達成に向けた指導を実施する。
- (2) 新しい学力観、学習観に基づいた授業実践の研究と導入
 - ① 全授業対象で「探究的学びのスタイル」を取り入れた学習シラバスを作成、共有する。
 - ② 教員の発想や取組を活かし合う環境設定、外部有識者との積極的な連携を実施する。
 - ③ 大学受験・合格・進学データにおいて、生徒のグローバル経験、探究的学びの履歴などとの相関を加味し、模試偏差値だけでなく新しいデータを整備、活用する。
- (3) 本校の特色ある課外活動を活用した生徒の主体的な学びの研究と実践
 - ① ユネスコ・スクールの各種大会、研究会などへ、それぞれの授業単位で積極的に参加し、発表し、他校と連携し、学び合う機会を奨励する。
 - ② WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）校やSGH（スーパーグローバルハイスクール）ネットワーク校の学びのプログラム、研究発表の場に生徒が積極的に参加し、その成果を、授業や課外学習などにおいてフィードバックできる機会を設定する。
 - ③ フロンティア・プロジェクトなど、本校独自の生徒主体の活動チームや個々の生徒の先進的な取組をさらに進化、外部機関との一層の協働を促進する。

2-3 進路指導

- (1) キャリア教育
 - ① 各年の発達段階に沿った本校のプログラムを継続実施していくとともに、学校行事全体との関係についてねらいと目的という観点から改善を検討する。
 - ② 取り組んだ活動について、振り返りの時間を設定し、自らPCに記録し保管する指導を継続する。
 - ③ 地球市民教育を実践する学校として、世界とつながり、多様な文化を持つ人たちとの共生に貢献するキャリアを生徒が考え、将来設計に活かす支援環境を設定する。
 - (2) 進学力向上
 - ① 「学力の3要素」を育成することを目指し、これからの多様な大学入試に対応する。
 - ② 年度始め戦略会議で教科達成目標値、学年の進学力向上プログラムを策定する。
 - ③ 意欲的な中学生や高校生を対象として、平時の早朝や放課後に発展講習を実施する。
 - ④ 各学期の初めの職員会議で、前学期の外部模試の検証を行うとともに、目標値達成に向けた取組を各学年の進路担当者が発表、改善方向を共有する。
 - ⑤ 第1回高校3年生保護者対象進路ガイダンスをコロナの感染状況を見ながら、できるだけ対面で実施、他学年は映像配信で実施する。
 - (3) 高大連携
 - ① 大妻女子大学の出張授業、同大学文学部の公開授業への参加を促進する。
 - ② 高校3年生対象の大学説明会を10月に複数の大学の入試広報担当者により実施する。
 - (4) 今後変化する大学入試指導への対応と実践
 - ① 大学入試がよりグローバルな形へ変化していることを踏まえた指導を検討、実践する。
-

- ② 国際併願、海外大学への進学指導をより一般化させ、エッセイ、志望理由書、インタビュー面接で試されるコンピテンシーを生徒が高められる研究を実践する。
- ③ 英語4技能試験が、大学入試のKey Competency になっていることへの対応を行う。

2-4 生徒指導

(1) 生徒指導の基本理念

- ① 校訓「恥を知れ」を生徒指導の基本理念とし、他者に対する思いやり、寛容、モラルを以て自主的で主体的な行動をとることにより、好ましい友人関係の構築や社会性の涵養を促すことを目指した指導を実践する。
- ② 部活動が幅広い多様な学びの場となるように、本校「部活動のガイドライン」に沿って生活全般にバランスのとれた活動の展開を推進する。
- ③ 学校行事、委員会活動において、SDGs など地球課題に取り組むなど、生徒の積極的な参加を促進する。

(2) 自主性・主体性の尊重

- ① 学校生活において、自主性、主体性を尊重し、自己肯定感を高めるため、自ら学びの目標を設定し、メルクマール（中間目標）の達成状況を自己評価する習慣を身に付ける指導を実践する。
- ② 自己肯定感を高めるために不可欠な家庭での対応について、保護者の理解を推進する。

(3) 多様性を認め尊重

- ① 多様な個性をもつ他者との違いを認めると共に、思いやり、寛容の心を持ち、連帯感を醸成できるよう生徒集会、HR、各種行事等の機会をさらに活用する。
- ② 社会、世界に視野を広げ、多様性の否定が、差別、分断、紛争の原因となっていることを理解し、多様性について正しい思考・行動の在り方を学ばせる指導を実践する。

(4) 安全・安心教育

- ① ネットに関わるリスク防止の教育をHR、生徒集会で実践する。
- ② 「いじめ」の非社会性、犯罪性を理解させる指導とともに、早期発見のための定期的な全校生徒対象のアンケート調査を継続実施する。
- ③ 課題を抱える生徒の対応のため、カウンセリングルームと家庭の連携を強化する。

(5) 外部専門家等の活用

- ① 専門家による茶道、華道などの伝統文化の体験学習や性教育、生き方教育に関する講話を実施する。

2-5 組織体制

(1) 能力開発

- ① 教員育成用「学校導入版 Find アクティブラーナー」の利用を促進する。
- ② 入試問題を真剣勝負で解く5教科担当教員対象大学入試問題研究会を継続実施する。
- ③ 大学入学共通テストの問題傾向分析会を試験翌日に実施する。
- ④ 12月上旬に「授業アンケート」を実施する。
- ⑤ 定期考査の問題を教員間で公開し、互いに検証できる環境を整備する。

(2) 「新しい学び」に対応する体制

- ① リベラルアーツ、STEAM教育、グローバル・コンピテンシー、多様性、インクルージョンなどをキーワードとする新しい学びの研究を実践する。
- ② 教職員やステークホルダーが、日本語話者や日本の組織風土の価値観を持っている人だけではないことを前提とした組織体制を整備する。

(3) 充実した校外ネットワークを活用し、開かれた組織体制としてのより一層の充実

- ① ユネスコ・スクール加盟校として、国内外の優れた実践をしている学校、組織と連携して、研修や情報交換の機会を設定し、より一層教職員の意識を高める。
- ② 本校教職員の高い専門性や多様性を尊重し合い、フレキシブルに自由に意見を交換ができるオンライン・インパーソンの両面でのプラットフォームを充実する。

2-6 教育環境の充実

(1) Beyond School の意識を進化させ、授業と授業外がつながる教育環境の一層の充実

- ① 地球市民教育研究校として国内外の様々な機関・組織との連携、情報共有をより一層進め、その教育リソースの活用可能な教育環境の充実を推進する。
- ② 留学提携校、海外の学校の教員や生徒の取組を校内で共有する機会を増やす。

(2) ICT 環境の更なる充実を図り、個別最適化への学びの環境のより一層の充実

- ① ICT の一層の活用を進めるために、その活用法への研修の充実を図る。
- ② 校内プラットフォーム（TEAMS や manaba）の活用の課題を検討、改善する。

2-1 入試広報

(1) 高等学校生徒募集活動の拡充

- ① 高校入試セミナーを拡充(社会貢献、知名度の向上)する。
- ② 授業見学会、体育祭見学会、学校祭見学会等、学校・生徒の様子を直接見てもらえるような生徒募集行事を拡充する。
- ③ 全教員による中学校訪問、卒業生を活用した母校訪問を継続する。
- ④ 中学校長推薦、地域推薦制度を拡充する。

(2) 中学校生徒募集の拡充

- ① 中学校受験をメインとする塾への訪問を強化する。
- ② まなび力入試等を周知・徹底し出願者数を増加する。

2-2 学習指導

(1) 中学校

- ① 入学直後から自学力育成指導を実施する。
- ② RST(読解力テスト)を継続し、昨年度データと比較して課題を見つけ対応する。
- ③ 学校設定科目「言語技術」を通じた読解力を強化する。
- ④ 習熟度別授業を実施し、計算力・基礎力を育成する。
- ⑤ オンライン英会話 QQE (QQEnglish) による英会話指導を行い、各学年による英語劇の上演等を通して英語表現力を育成する。
- ⑥ 中学1年生、オオムラサキの飼育・観察を通じた探究活動を実施する。
中学2年生、地学野外巡検、化石博物館見学・発掘体験を実施する。
中学3年生、科学研究・理科展やつくばサイエンスエッジでの研究発表を行う。

(2) 高等学校

- ① 新学習指導要領、観点別評価を高校2年次まで学年で進行する。
- ② 入学直後からの自学力育成指導を継続する。
- ③ RST(読解力テスト)を継続し、昨年度データと比較して課題を見つけ対応する。
- ④ 留学生との交流事(グローバルキャンプ)を実施し、討論・プレゼンテーション力を育成する。
- ⑤ コタカ学(学祖大妻コタカの言動を学ぶ探究活動)を充実する。
- ⑥ 各種検定試験への受験指導を強化する。
- ⑦ 海外修学旅行、各種海外研修を実施する。
- ⑧ 初任・若手教員の授業力育成研修を拡充する。
- ⑨ 年3回以上の授業参観及び事後の指導法についての検討会議を実施する。
- ⑩ 年1回の授業評価アンケートを実施する。

2-3 進路指導

(1) 生徒の進路意識の啓発

- ① 卒業生を活用したキャリア教育(進路講演会)を実施する。
- ② 各学年の生徒・保護者に向けての進路説明会を実施する。
- ③ 地域企業と連携する。
- ④ 大学・一般企業の研究室訪問、大学との連携事業を拡充する。
- ⑤ グローバルな考え方をもち、実践し、社会人として幸せに生きる女性の育成事業(グローバルリンクス事業)を拡充する。

(2) 進路指導の具体

- ① 大妻ゼミ、大学入学前プログラムの内容を更新する。
- ② 多様な入試に対応するための個別指導を徹底する。
- ③ 生徒個々の進路先について、年複数回の進路先検討会を実施する。
- ④ 大学・予備校と連携した医療看護系大学進学者への支援を行う。
- ⑤ 若手教員の進路指導力育成研修を実施する。

2-4 生徒指導

(1) 自校教育

- ① 外部講師による論語指導、週1回の論語の素読指導を行う。
- ② 年度当初、新入生対象のソーシャルスキル研修会を実施する。
- ③ 毎朝の挨拶・整容指導を実施する。
- ④ 若手教員の生徒指導力育成研修を実施する。

(2) 安全・安心教育

- ① 登下校メールを全学年に配備する。
- ② ネットパトロールによる SNS 等の監視を継続する。
- ③ いじめ防止に向けて毎学期終了時に生活アンケートを実施する。
- ④ 人間関係把握のための i-Check（生徒質問紙調査）を実施する。
- ⑤ スクールカウンセラーによる対生徒・対保護者への相談支援を強化する。
- ⑥ 特別支援教育相談員による教員支援体制を維持する。
- ⑦ 防災避難訓練の実施、施設等の定期点検を行う。

(3) 部活動の活性化

- ① バレー部、サイエンス部を中心にメリハリをつけて部活動の活性化を図る。

2-5 組織体制

(1) 校長の教育方針の具体化と全職員への周知

- ① 教育方針を具体化する。
- ② 各事業の責任分担を明確化する。
- ③ 各事業の進捗状況を確実に確認する。
- ④ 各分掌・学年主任への権限を委譲する。
- ⑤ 主任層との話し合いを強化する。
- ⑥ 全職員との年複数回の面談を行う。

(2) 教職員のワークライフバランスについて

- ① 長期休業中の学校閉鎖日を設定する。
- ② ファイリングシステムを整備する。

(3) 学校評価について

- ① 年 2 回の学校評価委員会を開催する。
- ② 学校評価アンケートを実施する。

2-6 教育環境の充実

- (1) PC 教室の更新
- (2) ICT 教育環境の整備
- (3) ICT 教育研修会の実施
- (4) 初任者研修の充実

3 法人関係

3-1 社会的責任

- (1) 各学校の目的達成及び理念の実現のため、継続的な自己点検・自己評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努めることを通じて、各学校の教育研究の水準を保証し向上させ、法人及び各学校に対する社会の信頼を一層確実なものとする。
- (2) 業務の執行、財産の状況の適正性を確保し、健全な経営に対する社会一般への信頼に応えるため、内部監査室及び会計監査人と連携した監事監査計画を定める。

3-2 管理運営

- (1) 健全で強固な財務体制の確立
 - ① 健全な支出運営による収支改善
 - ・中期財務計画（令和 5～8 年度）の施策を確定し実行する。
 - ・大学設置基準改正に伴う職制変更等を踏まえ、人件費抑制のため、給与規程等の見直しや組織の適正化と定員の見直しを行う。
 - ・管理運営コスト削減のためコンサルタント導入により、施設管理費の削減を目指す。
 - ② 学納金収入以外の収入確保による収支改善
 - ・大妻未来募金、遺贈・相続財産の寄付、古本募金及び大妻講堂修繕支援募金の募集活動を行う。
- (2) 戦略を意識した活動と働きがいのある職場構築
 - ① ガバナンス体制の強化
 - ・理事長による学院方針説明会（中期計画進捗状況説明会等）を実施する。
 - ・令和 4 年度に統廃合された会議体（常任理事会、学部長会議、校長会、局部長会）において、さらなる政策形成及び意思決定を促進する。
 - ② 教職員の人材育成
 - ・大学組織・事務組織の変更に伴う教職協働の強化と職員の高度化実現のための検討を行う。
 - ・教員及び職員を対象に「信頼関係の醸成」を目的としたプログラムを実施する。
 - ・職員の役職・職級に応じた対面式による研修及び e-ラーニング研修を実施する。
 - ③ 働きがいのある職場の実現
 - ・男性の育児介護に関する特別休暇や時短制度の取得状況を検証する。
 - ・「福利厚生」に関するアンケート及び「風通しのよい大妻」に関するアンケートを実施する。
 - ・戦略的業務のウエイトを検証するため、職員の目標管理制度を再検討し、戦略的業務の業務量を記載する仕組みを構築する。

Ⅲ 事業活動収支予算書

(単位：千円)

	令和元年度*1	令和2年度*2	令和3年度*3	令和4年度*4	令和5年度
学生生徒等納付金	13,302,632	13,306,601	13,157,131	12,852,666	12,640,223
手数料	355,299	322,299	337,483	288,082	297,473
寄付金	155,937	138,700	117,526	127,275	123,290
経常費等補助金	2,282,479	2,634,201	2,676,786	2,684,419	2,687,202
付随事業収入	450,978	161,223	427,358	413,077	401,052
雑収入	305,176	406,058	341,094	348,924	261,247
教育活動収入計	16,852,501	16,969,082	17,057,378	16,714,443	16,410,487
人件費	9,784,850	9,970,855	10,169,689	9,955,886	9,907,276
教育研究経費	5,738,375	6,407,382	6,067,757	6,084,875	6,070,438
管理経費	993,050	976,691	955,545	994,213	1,037,381
徴収不能額等	0	0	278	0	0
教育活動支出計	16,516,275	17,354,928	17,193,269	17,034,974	17,015,095
教育活動収支差額	336,226	△385,846	△135,891	△320,531	△604,608
受取利息・配当金	190,057	182,810	186,761	195,721	182,022
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	190,057	182,810	186,761	195,721	182,022
借入金等利息	0	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	190,057	182,810	186,761	195,721	182,022
経常収支差額	526,283	△203,036	50,870	△124,810	△422,586
資産売却差額	0	0	0	0	0
その他の特別収入	107,578	229,709	133,450	160,548	1,371
特別収入計	107,578	229,709	133,450	160,548	1,371
資産処分差額	0	0	0	0	0
その他の特別支出	0	0	181,000	0	0
特別支出計	0	0	181,000	0	0
特別収支差額	107,578	229,709	133,269	160,548	1,371
〔予備費〕	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
基本金組入前当年度 収支差額	383,861	△223,327	△65,861	△214,262	△671,215
基本金組入額合計	△1,460,379	△916,628	△848,027	△766,080	△270,325
当年度収支差額	△1,076,518	△1,139,955	△913,888	△980,342	△941,540
前年度繰越収支差額	△10,751,996	△11,256,219	△12,009,285	△12,264,569	△13,244,911
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△11,828,514	△12,396,174	△12,923,173	△13,244,911	△14,186,451

(参考)

事業活動収入計	17,150,136	17,381,601	17,377,589	17,070,712	16,593,880
事業活動支出計	16,766,275	17,604,928	17,443,450	17,284,974	17,265,095

*1 R2年3月27日更正 *2 R3年3月26日更正 *3 R4年3月25日更正 *4 R5年3月27日更正